

# モード Mode Mode は語る

中野 香織

## 衣装が生み出す重厚感

リドリー・スコット監督の映画「ナポレオン」が12月1日に全国公開される。ギロチンにかけられるマリー・アントワネットを眺める無名の軍人から身を立て、セントヘレナ島で生涯を閉じるまでのナポレオン・ボナパルトを新解釈のもとに描く。

トゥーロン、アウステルリッツ、ワーテルローなどで繰り広げられた有名な戦闘が生々しい迫力で描かれる。映画の画面は重厚な「本物」感をたたえており、それに大きく貢献しているのが他ならぬ衣装である。

衣装デザイナーのジャンティ・イ



衣装も見どころの映画「ナポレオン」(ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント配給)

ェーツ、軍服衣装専門家のデビッド・クロスマンが、膨大な数の歴史的衣装の約95%を創り上げた。ほぼ全

### 映画「ナポレオン」

ての衣装が時代に忠実で、靴底に至るまで経年変化も施している。肖像画でしか見たことのなかったナポレオンの軍服や、騎兵や歩兵のユニホームがよみがえり、戦闘で着用されているのを見る驚きときたら。

妻ジョゼフィーヌの着るドレスも細部まで技巧が施される。フランス革命直後に流行した、ギロチンにかけられた首を模した赤いチョーカーも再現されるし、革命前よりシンプルになる新古典スタイルのドレスの変遷にもリアリティーがある。

地位が上がるにしたがい金糸銀糸

の装飾やジュエリーが増えていくさまにも目を奪われる。皇帝の戴冠式で夫妻が着用する赤いマント、白いアーミンの毛皮、王冠も正確で、ジャック＝ルイ・ダヴィッドの絵画から動き出したような感覚を覚える。

そんな興奮から一步引いて眺めると、何者でもなかった男が皇帝にまで上り詰める過程で、壮麗な軍服が「権威」を与える絶大な役割を果たしたことがわかる。当時の軍服は今もスーツの細部に名残を留める。

現代的アレンジを加えず19世紀初頭を再現しようとした衣装は、ストイックに歴史に忠実だ。だからこそ一層、歯止めの効かない戦争に突き進む人間の愚かさや悲しさの現代性をあぶり出す。